平成２７年度三沢市総合振興計画後期基本計画に関する外部検証について

三沢市総合振興計画後期基本計画（以下「後期基本計画」という。）について、実施計画の内部検証結果を基に、三沢市行政改革推進委員会（以下「委員会」という。）において、外部検証を行った。

今年度は、後期基本計画のうち、昨年度、外部検証を実施しなかった施策を中心にて、検証作業をしていただいた。

検証の過程や検証結果は以下のとおり。

１．検証方法

今年度の検証は、後期基本計画の６つの基本方針のうち、「Ⅱ．環境と共生し安心できるまちづくり」、「Ⅲ．豊かな心と体を育むまちづくり」、「Ⅵ．健全で開かれたまちづくり」について、特に重点的に審議・検証を行った。

検証作業としては、検証シートによる検証と関係課へのヒアリングにより実施し、基本方針ごとに、委員会としての意見及び提言・提案としてまとめた。

２．検証状況

・第１回委員会（９月１８日）

検証対象とする施策の選択、検証方法の決定等

・第２回委員会（１０月９日）

検証シートの検証・審議、質問事項の取りまとめ等

・第３回委員会（１１月５日）

ヒアリングの実施（防災管理課、学校教育課）、意見集約

３．外部検証結果

外部検証結果については、次のとおり。（次ページ以降）

Ⅱ．環境と共生し安心できるまちづくり

東日本大震災後、防災体制の充実は、重要な課題の１つであり、災害対策マニュアルや防災マップなどの作成および避難勧告等の発令基準の見直しなど多くの対策を講じている点は大変評価されるところです。しかしながら、現在、市内には対策が遅れている地域も存在し、世界的規模の環境変動から多岐にわたる災害が予想されます。

今後は、実施している取組みの強化を図るとともに、多くの人に防災・減災の重要性を認識してもらう機会を充実させるなど、災害時には、自らの判断で行動できる市民が増えるよう、自主防災意識の向上に努めていただきたい。

また、世界的にも希少な仏沼の保全は三沢の環境資源として他に誇れるものと思います。三沢市独自の環境文化の発展のために、教育や観光などの様々な機会を通じて、三沢市の豊かな自然環境を生かした取組みを推進していただきたい。

No	提言・提案
1	自主防災組織の活動場所と避難場所を混同するようなケースもあり得ることから、周知を徹底していただきたい。
2	災害や防災に関する情報は、市民生活の中でも優先順位が高いと思われる。市ホームページのトップページに防災ページのリンクを貼りつける。避難方法のフローチャートや避難場所の図示など、情報はできるだけ図表でわかりやすく伝えるなど、情報が得やすい環境を整えるべきである。
3	町内会未加入世帯など、防災訓練や自主防災組織に参加していないような市民でも関われるような取組みを検討していただきたい。
4	避難場所となる学校は、建物も大きく移動距離もあることから、車いすの設置について、検討いただきたい。
5	仏沼を活用した環境教育やイベントとのタイアップなど、周知やＰＲ等に取組んでいただきたい。
6	仏沼を気軽に見学できる環境が整えられていない。トイレをはじめたとした、施設の整備が図られるよう取組んでいただきたい。
7	移転跡地の利用には様々な制限があることと思うが、跡地の有効活用について、検討いただきたい。

Ⅲ．豊かな心と体を育むまちづくり

住みたい街・住みよい街の基本として、教育水準があげられる。姉妹都市交流事業を含めた語学教育には一定の成果が見られているが、小・中学校の総合学力の水準は目標に達していない現状となっている。

基礎学力の向上は、現状の分析や教育委員会からの指導だけでは困難である。学校・家庭・地域の意見を聞く場を設け、それぞれが連携して、教育環境の充実を図れる独自

のシステム作りに取り組んでいただきたい。

また、三沢市の特色を生かした国際的な人財育成の推進、さらにはスポーツや文化という面にも力を入れて取り組んでいただき「国際文化都市」の実現に向けて、前進していただきたい。

No	提言・提案
1	国際交流活動に参加したことがある市民の割合が非常に少ない。国際交流事業に関する窓口やコーディネーターを設置したり、興味がある人がボランティアで参加できる環境を整えるなど、多くの人を巻き込む体制を整備していただきたい。
2	イベントだけではなく、英語で気軽に話せる機会を設けたり、コミュニケーションが取れる方法を考えるなど、商店街や学校などと多角的に連携して、英語に親しむ取組みなどを実施することで、国際交流の推進や英語を話せる市民の増加が期待できると考える。
3	三沢ガールスカウトは、国際交流事業を積極的に行うことなどで、非常に人気があるとのことである。 この団体の活動に限らず、日常的に行われる活動が、三沢らしさに繋がると思うが、国際交流を実施している団体や組織と行政側も連携しながら、事業を実施してはどうか。
4	基礎学力の向上を図るため、上北郡内でも下位である現状を真摯に受け止め、原因究明を図るとともに、先進事例の研究・導入を進めていただきたい。 また、これらを取組む過程において、学校内、学校間での共有を密にし、全ての児童・生徒に還元できる体制を整えていただきたい。
5	三沢市には、全国から人が集まっており、住みやすい街だと言われてきたが、その中に、学習環境や教育の充実も含まれていると考える。 子どもの学力の向上や「教育のまち」というイメージは、定住化にも繋がるものであり、力を入れて取り組んでいただきたい。
6	中高一貫又は連携教育の拡大、コミュニティスクールやキャリアノートの導入など、三沢市独自の教育に関する取組みについて、検討していただきたい。
7	三沢市の目指す姿である、「人とまち　みんなで創る　国際文化都市」の中で、「文化」を掲げているのに、文化面に関する取組みが弱いように感じることから、文化に関する取組みにも力を入れていただきたい。
8	歴史民俗資料館は、縄文時代に始まる三沢の歴史を発信する施設であり、教育面において重要であると共に、観光についての可能性ももっている。先人記念館だけではなく、歴史民俗資料館にも予算や人員を充て、強化し活用すべきであると考える。
9	（仮称）国際交流スポーツセンターの建設に合わせ、老朽化した施設の整備も含め、多くの市民に、スポーツ機会の充実が図られるよう、努めていただきたい。

10	スポーツ大会への派遣に係る補助金について、使いやすく、わかりやすい制度となるよう検討していただきたい。

Ⅵ. 健全で開かれたまちづくり

まちづくりの原点は、「地域で支え合い生活すること」「地域で子供を育てること」など地域内におけるコミュニケーションであると考える。現在推進している、総合振興計画後期基本計画や第二次三沢市行政経営推進プランにおいて、三沢市が、さらに理想の街に近づくよう期待します。

生活スタイルが多様化する中で、難しい面も多々あると思うが、地域活動団体への支援や広報・広聴の充実をはじめ、協働によるまちづくりが進むように、取組んでいただきたい。

また、限られた予算と人員で多くの施策・事業を実施していくにあたり、経営感覚を持ったうえでの行政運営に努めていただきたい。

No	提言・提案
1	市ホームページのトップにカレンダーを置き、そのカレンダーからそれぞれの事業やイベントの内容ページにリンクを貼るようにすれば、事業やイベントの情報がわりやすく、また、得やすくなると考える。
2	生活スタイル等の変化により、小中学校、町内会（子ども会含む）などを取り巻く状況も、昔と比べて変わっており、人間関係が希薄化しているように感じる。 難しい問題ではあるが、色々な方面から取り組んでいただきたい。
3	市民の自発的な活動・活動団体の育成を図るための仕組みづくり（コミュニティビジネスへの支援等）が重要であると考える。
4	事業の活発化のための予算措置は必要であるが、どのような事業でも多少なりとも市の予算を伴うのであれば、経営感覚を持って取り組んでいただきたい。そのためには、事業の実施報告などを求め、結果がどうであったのか、どの程度の効果があったのかなどを分析し、見直しをしていくことも大事である。
5	青い森鉄道と新幹線とのアクセス向上に向けた取組みを継続して実施してもらいたい。
6	「高速交通網の整備」がどのように「生活に便利なまちづくり」に繋がるのか、市民からわかりづらい。他の分野との関係性により便利さが生まれてくると思うが、具体的事例を挙げて、市民目線で丁寧に説明していく必要がある。

その他

No	提言・提案
1	航空機産業の誘致に向けた三沢市新産業創造支援センターの設置を契機に、今後は、地元における先進技術者の育成なども必要ではないかと考える。 産学官の連携による事業なども検討して、人材育成にも取組んでいただきたい。
2	イベントについて、来場者が少ないように見えるのに継続して行われているものや、いいイベントであっても同じ市内で開催日時が重複しているものなどが見受けられる。 イベントの目的や効果を再検討し、必要性や予算の増減について、今一度、検討するべきではないか。市が、何らかの形で関わっている（主催・共催・補助金等交付）事業であれば、なおさらである。